

BLOCKSY

vol.02 2025年2月

新時代の建設産業に迫る！
～多様性としなやかさを纏う女性たち～

現場からバックオフィスまで
飛躍の幅を広げるには？

平均残業時間どれくらい？
有給って取りやすい？
何が1番のやりがい？

建設産業で働く女性たちや
多様なカルチャーを生み出そうとしている
経営者のリアルボイス伝えます。

今こそ、建設産業に注目
多彩なフィールドで輝く人のSTORY 発見！

CONTENTS

04 BLOCKS について
COCEPT & HISTORY

06 高島綾沙 __ 伸和建設株式会社（中津市）

08 山本匠子 __ 小田開発工業株式会社（佐伯市）

10 あなたはどんな仕事をしていますか？
建設業の仕事について

12 豊田采加 __ 三浦国土建設株式会社（大分市）

13 中野和奏 __ 公益財団法人 大分県建設技術センター（大分市）

14 板井愛夏 __ 株式会社野村建設（宇佐市）

15 稲葉真奈美 __ 西日本土木株式会社（豊後高田市）

16 社長応援メッセージ

17 池上淳子&加来比呂恵 __ 大洋測量設計株式会社（宇佐市）
金丸優花 __ 株式会社宇佐建設（玖珠郡）

18 学生からの Q&A に答えよう

22 吉良充代 __ 匹田電気工事株式会社（佐伯市）

23 鶴川道子 __ 東九工業株式会社（中津市）

24 中嶋佳奈恵 __ 株式会社 M・ZEC（中津市）

26 講師陣からのメッセージ

27 スキルアップセミナー参加企業一覧

BLOCKS HISTORY 2020-2024



TOP LEADERS SEMINAR ～女性活躍について理解を深める～



SKILL UP SEMINAR ～女性が専門的な知識や技術を習得～



BLOCKS 交流会 ～学生に向けた建設産業の魅力発信～



BLOCKS FUTURE LOUNGE [成果発表会] ～建設産業の未来を想う人たちが集い、提案し語り合う場所～

建設産業に携わる私たちは日々がより便利に、より安全に暮らせるようにインフラを整備することが役割だと考えています。
だからこそ、技術力を磨き自然と調和することを大切にしたい。
だからこそ、地域の方々に声をもっと聞きたい。
だからこそ、建設産業の未来を想う人々は「伝統にこだわりながらも変化すること」それを伝えていくことも使命だと感じている。
BLOCKS FUTURE LOUNGE は、そんな建設産業の未来を想う人たちが集い、提案し、語り合う場所です。
毎年度のゴールイベントとして、スキルアップセミナー受講者代表によるプレゼンテーションが行われます。
会場では建設産業を盛り上げていこうという雰囲気が、一体となって広がっています。



『建設産業に女性のチカラを』

県では、令和2年度から、建設産業における女性の活躍を推進する事業（BLOCKS）を展開し、経営者向けのセミナーや女性が技術を学び職域拡大につなげるスキルアップセミナーのほか、建設産業で働く女性のロールモデルづくりに取り組んできました。
ロールモデルとなる女性たちは、“ブロックス フレンズ”として、自らが社内でも活躍するとともに高校生など学生との交流会等を通じて、建設産業の魅力を発信しています。
今では、こうした女性たちのネットワークも県内各地に拡大しています。

「建設産業は楽しい!かっこいい!」

誇りややりがいを持って活躍する女性、活躍し続ける女性たちを、もっと多くの方々に知ってもらいたい。見てほしい。これまで積み上げてきた「BLOCKS」を。

コンセプト 『積み上げる』

毎日の当たり前を作っている 世界のインフラづくりは
大きな転換期を迎えている

私たちは、人手不足や働き方の変化に合わせて、
しっかりとした土台を作り 伝承してきた技術を活かしていく

女性や若者にも 新しい領域の働き方を作り、
イノベーションを起こす

地域を守る建設産業としての誇りを忘れず

そこにいる人、全てが発信したくなる これからの未来に向けて

積み上げる



Instagram



Youtube



BLOCKS HP

BLOCKS GIFT



Behind the Story of BLOCKSY's COVER

高島綾沙さんを表紙に推薦する理由を聞きました！

「会社でいろんな取り組みをしたり、人として尊敬してる。相談に乗ってくれていいアドバイスをくれる。」

「姉御肌」という点です。「建設業の姉御」のイメージで表紙に載っていたらとても興味がそられるなと考えました。グループワーク等で接する機会が多くあり、そのたびに「姉御〜!」と思ったからです。」



総務からすすめる！建設業界の働き方改革

総務部で女性技術者を育てたいとひっぱりだこ高島さん。BLOCKSでは人材育成コースを受講。リーダーとしては寄り添い型と評される気質で、事務から会社を変えていく！

AYASA TAKASHIMA

■今のお仕事は？

今の仕事は総務部で人事、広報を担当しています。「人材確保のために会社をホワイトにする」ということで、5年くらい前から働き方改革に取り組んでいます。その中で女性技術者の採用も積極的に行っています。

令和4年度に県知事から働き方改革優良企業、そして女性活躍推進事業者の表彰をいただきました。男性にとっただけでなく、女性にとっても働きやすい会社づくり、現場づくりを目指しています。

■女性技術者を育てたいというところに特別な思いがあったのですか？

会社が老人ホームや葬祭業なども運営していて、女性社員が多いこともあり、「女性が働きやすいように」という代表の思いがもともとありました。女性はライフイベントが多いので、安心して働ける、出産しても戻ってこられる職場にということ、企業主導型の保育園も造っています。女性特有のがん検診の補助をしたりと、いろんな取り組みをしています。総務部は社長が直属の上司になるので、ああしたいこうしたいが言いやすいんですよ。社長がいいよと言えどOKなので、意見を通しやすいです。

■なぜ女性技術者が求められているのでしょうか？

建設業界はとにかく人手不足です。会社の存続には多様性への対応が求められています。女性も、外国人も必要とされています。うちの会社は施工管理（現場監督）の仕事をしているので、どうしても資格が必要なんですよね。外国人スタッフにその資格を

ていきたい。現在2人目の出産を控えている女性技術者がいて、育休を予定しています。彼女は、もちろん！現場復帰を希望しているので、復帰後も無理なく働けるよう、柔軟な勤務制度や育児支援プログラムを用意してあげたい。元気な赤ちゃんを産んでまた笑顔で働ける場を用意して復帰を待ちたいです。

■BLOCKSに参加して、どんな変化がありましたか？

何が一番ありがたいかと言えば、私一人だけの意見じゃないと言える、建設の女性みんなこう思ってる！と言えることです。県の事業として運営されていることもあって、安心できる場所できちんとしたセミナーを受けていると、社長からも信頼がある。横のつながりができて、別の企業とアバターを使ってオープンカンパニー（会社案内）をやったりしました。建設の女の子はすごい人がいっぱいいて、みんなすごく頑張っています。それが建設業界の人にも、外の人たちにも伝わったらうれしい。

この仕事は面白いですよ。感性も必要、コミュニケーションも必要。女性だからと言ってちやほよもされていない。建設は資格が必要な仕事。みんな最短最速での資格取得を目指して勉強しています。「どうすれば現場で認めてもらえるか？」を本人たちが一番考えている。子育てや出産も自分たちの人生にあって、それでも他の人と同じに仕事をがんばれる自分であるために、努力がどれだけ必要なのかというのをみんな分かっています。

■現場の女性技術者に対して、どのような思いを抱いていますか？

取ってもらうのは難しい面もあるので、きちんと資格を取ってもらえる女性がキーパーソンです。そしてうちの会社は比較的新卒の子が集まってくれている会社なので、大事に育ててずっと働き続けたいと思える会社にしていきたいです。

■女性が建設業で働くメリットは？

女性が建設に入ってくることのメリットは、ありません！女性の仕事はきめこまやかで丁寧、そして居てくれるだけで雰囲気がいい。現場はまだまだ9割男性。女性社員がいるだけで場が和やかな雰囲気になりますね。初めは現場に送り出すことが不安でした。いじめられてないかと心配して見に行くことがあったんですけども、本人たちは全くそれがなく、まるで孫のように大工さんたちに言うことを聞かせている。「〇〇ちゃんと言うならしようか」とか。女性が現場で技術者として働くことで、いろんな発見があります。

私たちの会社は、現場で活躍する女性技術者たちの努力によって、多様性を重視した働きやすい環境を築き上げてきました。その取り組みが評価され、このたび次世代育成支援対策推進法に基づく「くるみん認定」を取得することができました！女性技術者たちは、建設現場の安全管理やプロジェクトの円滑な進行に貢献すると同時に、育児や家庭との両立にも取り組んでいます。彼女たちの頑張りが、他の社員にとっても良いお手本となり、会社全体の働き方改革を後押ししています。現場で奮闘する女性技術者たちの力が、建設業の未来を築いていると思います。これからも多様な人材が活躍できる職場を目指して、さらに成長し

私が出来たことは限られていて、やっぱり一番がんばっているのは現場の人なんです。私が一生懸命頑張れば、会社注目してもらい、会社が表彰されたりします。けれども会社が賞をもらっても、実際働いている現場の社員がそれを実感できているか？と言われれば、まだまだそうではないと思う。今年新卒で入社した総務の子が、現場で活躍する女性技術者をみて、「私も〇〇さんみたいな女性技術者になりたい」と面談の時に言ってきました。現場の最前線で活躍する女性技術者をカッコいいと憧れをもってくれたことが嬉しかった。次のBLOCKSにも参加してもらって、横のつながりを作って色々な女性技術者と関わってほしい。

■「社員一人ひとりの想いを大切に——サテライトオフィスで新たな働き方を実現！」

「4月に主人の実家に帰らなければならなかった。でも、これまで楽しんできたキャリアを無駄にしたくないし、大好きなこの会社を辞めたくない。」定期面談の際にそう語ったのは、建設部で活躍している女性社員でした。彼女と何度も面談を重ねて一緒に色々なことを考え悩み、そしてすぐに社長に相談しました。

彼女の想いに応え、そして多様な働き方をサポートするために、私たちは新たな挑戦に踏み出しました。それが「サテライトオフィス」の開設です。

彼女の引越した先の近くの大分市にサテライトオフィスを開設し現在彼女はそこへ通勤しています。そこから近い現場を担当したり、これまでと変わらず現場監督をしています。直接会える日は少なくなり寂しい面もありますが、これまで以上にコミュニケーションを大事にして日々仕事に取り組んでいます。



SHOKO YAMAMOTO

山本匠子 小田開発工業株式会社（佐伯市）

建設×アスリート×ママ＝新しい働き方！

企業アスリートとして競技とコーチ業、仕事を両立しながら、2024年1月に第一子を出産、業務の分業化により、リモートワークを実現し、建設産業のこれまでにない働き方を切り拓く。



MY
PRESENTATION
for BLOCKS



小田開発工業
株式会社に
ついて

アスリート社員としての建設業

建設業に入った理由は、ハンマー投げをやりたいからです。鹿屋体育大学で陸上をしていましたが、卒業後も選手として競技を続けるために、企業とアスリートをマッチングするアスナビに登録しました。そこで社長と出会い、インターンに参加して、現場の規模や働く人たちに魅力を感じました。社長からは「仕事とは別に目標や夢を持ちながら取り組むことはとてもいいことだから応援する！」との言葉をいただき、入社を決意しました。

とはいえ、最初から競技環境や就業環境が整っていたわけではありませんでした。会社では女性技術者社員、アスリート社員の採用の前例がなく、お互いに「一緒に考えながら進めていこう」という姿勢で、模索しながらスタートを切りました。はじめは、8時から17時までフルタイムで勤務し、その後陸上の練習をするという生活を送っていましたが、ある日、社会人競技経験のある社員が練習時間確保を心配し声をかけてくれて仕事や競技の目標を監督さんや先輩たちに話す機会を設けてくれました。

心を開いて伝えること

この当時は実は：いざれ保育士になることを目指していました。現場監督の仕事に對して、カッコいいけど「この道で生きていきたい」という強い思いはありませんでした。それでも今できることはとにかくがんばりたい、会社の一員として少しでも力になりたい、とっていました。

そんな本心を打ち明け、監督さんも「応

援は絶対いくけん」と応えてくれて：。そうやって胸の内を明かしたので、それからは練習時間や内容などを素直に伝えることができるようになり、練習メニュー表を作ってみるにも分かるように共有しました。

会社がアスリート社員を採用する狙いは何ですか？

アスリート社員の働き方を模索することで、子育て・介護世代の時短勤務の選択や、高齢なスタッフが週に数日だけ働ける環境を整えたりするなど、さまざまな背景を持つ人たちに對して、柔軟な働き方を提案できるのではないかと考えています。

作業着のアップサイクル発案 首の日よけ

去年の夏（2023年）、作業着をアップサイクルした製品を開発しました。アスリート社員2人で「現場は首が熱いよね」とよく話していました。市販の日よけはフィットするものがなく、「自分で作りたい」と思い社長に相談して許可をもらいました。

素材となる作業着のストックが無くなったとき、インスタで不要になった作業着を募集したら、全国各地から寄付がありました。第二弾のボーチも開発し、会社のネットショップで販売をしています。SOSへの取り組みだけでなく、退職者への記念品としての活用も検討しています！

BLOCKSに参加して変化したこと

私がBLOCKSに参加したのは、いろいろなことが重なったタイミングでした。3次元設計データを作って現場と分業するバックオフィス業務がスタートしたり、新しいアスリート社員の指導役を任されたりです。ところがバックオフィス業務をスタートしたものの、うまくいかず、どうしてやっていけばいいのか？と困っていた時にBLOCKSに参加しました。

講座では「情報発信していないことは、存在しないことと同じ」ということを学び、実践として会議資料を作ってみるなどコミュニケーションを取り、自分たちから動くことができるようになりました。成果発表会に登壇し、社長から「思い描いていた以上のものを目指しているのがわかった、頑張っていこう」と言われました。それがきっかけで、環境が大きく変わり、コミュニケーションが増え、仕事だけでなく、お互いの思いも共有できるようになりました。

これからの展望は

産休・育休後、生後8か月で職場復帰をしました。が、本社出社とリモートのリズムを整えるために試行錯誤を続けています。リモートならではの難しさを感じつつも、新しい働き方を模索しながら進んでいます。また、競技にも復帰し、2025年は試合出場を目標に頑張っています！

伝えたいこと

この業界を志す学生には、「いろんな人・もの・会社を見て！」と伝えたいです。会

MY HISTORY

- 大分県立大分雄城台高等学校卒業
- 国立大学法人鹿屋体育大学（体育学部・スポーツ総合課程）

大学卒業後、競技を続けるという選択肢を与えてくれた大分県アスナビと採用してくれた社長、社員のおかげで今があると思います。



BLOCKS参加女性に聞きました!

「あなたは
どんな仕事をしていますか?」
What kind of work do you do?

求人や学生の採用も
私たちが担当します!

女性目線は
とても大事!

- ・ドローンでの現場撮影
- ・図面作成
- ・ICTの施工補佐
- ・SNS投稿
- ・学生の採用

- ・設計積算
- ・現地調査
- ・各種申請書類の作成
- ・現場作業など

- ・事務全般
- ・広報
- ・求人
- ・雑用

- ・小口現金管理
- ・請求書処理
- ・建退共業務
- ・契約書類確認
- ・総務
- ・講習会申請等

- ・現場の写真撮影や
現場補佐
- ・パソコン業務

- ・写真管理
- ・品質管理
- ・出来形
その他

- ・工程管理
- ・安全管理
- ・写真管理
- ・現場調査
- ・予算案
- ・SNS投稿など

- ・ドローンを使った現場撮影
- ・現場写真の撮影
- ・現場作業補助
- ・各種書類作成補助

- ・積算
- ・リクルート
- ・設計

- ・現場で指示された
資料作成等

- ・事務員
- ・経理
- ・SNS投稿
- ・現場軽作業
- ・不動産賃貸管理
- ・不動産賃貸仲介補助

- ・書類作成
- ・契約書類
- ・見積
- ・請求書
- ・勤怠管理
- ・賃金計算
- ・建退共

- ・入札
- ・積算
- ・出来方写真管理
- ・研修スケジュール
- ・台帳管理
- ・接客

書類作成などの事務作業、
もちろん営業もお任せあれ!

対応力はバグゲン!

映え写真とります!

ドローンや
SNSは
今じゃ当たり前!

- ・安全パトロール
- ・書類整理
- ・積算
- ・ドローンでの現場撮影
- ・SNS
(インスタ・YouTube・ホームページの更新)
- ・三次元データの作成(ICT)
- ・BIMの作成(まだ練習中ですが...)
- ・DXの取り組み(システム構築等)
- ・現場監督
(人手が足りないときに
土木も建築も行きます)

- ・安全管理
- ・写真管理
- ・品質管理
- ・出来形管理
- ・現場での測量など

- ・総務関係
- ・経理全般

総務部工事営業課:工事経理(請求書処理)、
工事契約、積算、現場備品管理、共済組合管理、
パソコン等機械機器管理、広報全般、リクルート、若手社員の相談役

営業:あいさつ回り、外部用資料作成等
総務:申請関連、SNS投稿、広報(外部広告用データ作成)、採用活動、講演資料作成等
経理:通常経理業務、決算補助等
工事:ドローン撮影、社内検査等

建設産業 とは?

建設業(29業種):土木、建築、設備

土木工事業/建築工事業/大工工事業/左官工事業/とび・土木工事業/石工事業/屋根工事業/電気工事業/管工事業/タイル・れんが・ブロック工事業/鋼構造物工事業/鉄筋工事業/舗装工事業/しゅんせつ工事業/板金工事業/ガラス工事業/塗装工事業/防水工事業/内装仕上工事業/機械器具設置工事業/熱絶縁工事業/電気通信工事業/造園工事業/さく井工事業/建具工事業/水道施設工事業/消防施設工事業/清掃施設工事業/解体工事

お仕事の種類

技術職:建設現場での作業や専門技術を活かして、実際の施工を担当
施工管理:工程、品質、安全、予算など、現場全体を管理・調整
設計:建物や構造物の設計図を作成し、計画を形にする
営業:顧客への提案や契約の獲得を通じて、プロジェクトの受注を目指す
事務:資料作成や経理業務など、現場や会社運営を支える業務を行う

建設コンサルタント:測量

道路、橋、港、公園など、人が生活するために必要な「インフラ」を
設計、調査、計画、管理する

任される仕事はこんなにたくさん!
だけど、平均残業時間は1時間未満

女子はメリハリが上手!

中野さんが地元である日田市の豪雨災害を目の当たりにしたのは中学3年生の頃。友達から一本の電話が入った。震えながら話す友達は、2階の部屋から迫りくる1階の浸水に怯えていた。中野さんはただ話を聞いてあげることしかできなかった。通っていた中学校が浸水し、思いの出のある河川プールが土砂に埋もれても、大自然がもたらす破壊力になすすべがなかったのだ。「自分にも何かできることがあるかもしれない。地域に貢献したい」と思いから、土木業界を目指しました。その後、中野さんは大分工業高等専門学校に入学。都市・環境工学科で学び、大分県建設技術センターに就職した。

まだ入社2年目だが、橋梁の積算業務を通じて、日田市でインフラの整備に貢献した。「自分が積算した現場が動いているところを見た時は感激しました。地域を助けるという夢を早くも実現した中野さんだが、同時に寂しさもあった。同じフロアに女性はいない。ひとりで戦っている気持ちがあったのだ。志を分かち合える仲間がほしい。そう思っていた時に出会ったのがBLOCKSだった。「同じ業界で働く女性たちと定期的にLINEで連絡を取り合うようになってから、『ひとりじゃない』と思えるようになりました。今はみんなで土木業界を盛り上げていけたらと考えています」。

地元・日田市の豪雨災害が
土木業を目指すきっかけに

企業の垣根を越えて
業界の魅力を伝えたい

中野さんが勤務する（公財）大分県建設技術センターでは、土木・建設業界が抱える大きな問題のひとつ、担い手不足の解消に取り組んでいる。「作り上げた物が何十年も地図に残る。自分たちの仕事を誇りに思います。だからこそ業界の魅力を多くの学生に知ってもらいたいです」。その手段として中野さんが選んだのはInstagramによる情報発信だ。今度はひとりではなく、企業の垣根を越え、大分県の建設産業で働く女性を巻き込んで事業を進めていく。「BLOCKSのメンバーからも『絶対に実現してほしい』って言われています。女性が働きやすい仕事環境であることを伝えていきたい」。現在、中野さんは職場で紅一点だが、周りの男性は優しいと言う。上司たちと現場近くの美味しいお店を巡る、趣味であるサウナの情報を交換するなどが楽しみでもあるのだ。「男性職員は女性の私への発言に気をつけてくださるので、私の方から積極的に話しかけますね」。そんなシャイな男性職員も、イベントに女性職員がいると周りに声をかけやすいと、中野さんの存在を喜んでいる。「女性だからこそ、現場で役に立つことがあると思います。それが何かを仲間と一緒に探したいですね」。建設業界で流行っている「女性活躍」という言葉の正解は何か。中野さんはこれから答えを探しに行く。ひとりではなく、みんなと一緒に。



MY
PRESENTATION
for BLOCKS



公益財団法人
大分県建設技術
センターについて

WAKANA NAKANO

中野和奏 公益財団法人 大分県建設技術センター（大分市）

この業界の流行語“女性活躍”
その正解は誰も知らない
だからこそ答えを探しに行く

男性が多いからという理由で
あきらめるのはもったいない
みんな温かくて優しいよ

AYAKA TOYODA

豊田采加 三浦国土建設株式会社（大分市）



MY
PRESENTATION
for BLOCKS



三浦国土建設
株式会社について

豊田さんは人見知りだ。高校時代は仲の良い女友達だけと過ごし、男性とのコミュニケーションを避けてきた。そんな豊田さんだから、学校からの紹介で土木・建設業の三浦国土建設株式会社に内定すると、友達や親が心配した。「男性が多い職場になじめるか、私も心配でした」。さいわい、同社には高校の先輩が動いていた。「この会社には怖い人いないよ」。そんな先輩の優しい声掛けと、会社訪問で感じたアットホームな雰囲気背中を押されて入社。管理部に配属され、工事関係書類の作成を任された。主な仕事は現場の写真の整理。現場経験のない豊田さんは、工部部から渡される写真が何なのか、どの順番に並べるのが正解なのかわからなかった。「工部部の負担を減らすための仕事なのに、工部部の人がやった方が早いんじゃないかって、現場で仕事中心の先輩に電話をかけられない自分を責めていました」。工部部に聞かないと仕事が進められない。そして、この仕事をこなさないと、次の仕事は任せてもらえない。豊田さんは勇気を出して自分から質問した。すると、強面の男性上司はどんな質問にも答えてくれた。嫌な顔をひとつもせずに。自分のことを気にかけてもらっていることがわかった。会社訪問で感じた「アットホームな会社」の第一印象は間違っではないなかったのだ。質問して知識が増えると、施工計画書に工事の流れをすらすらと書けるようになった。仕事を手ごたえがある。もっと自分にできる

自分から男性に話しかける
その一歩が踏み出せなくて

ことはないか。豊田さんに社会人としての責任感が芽生えた。

大勢の前での発表が
人前で話す大きな自信に

その後、豊田さんはBLOCKSに参加した。社内の仕事だけでなく、現場にも出たいという意欲で。1年目はSNSによる情報発信、2年目はドローンの運転、そして3年目は土木の積算を学び、資格も取った。なかでも、SNS用の写真の撮り方は、会社の広報活動ですぐに役立つ知識となった。「会社の日常をインスタグラムで発信しています。学生に土木・建設業に興味を持ってもらいたくて」。豊田さんは、男性中心の業界に抵抗があった数年前の自分を思い出しながら、どうすれば女性にこの業界の魅力を伝えることができるか知恵を絞った。そして、人前に立つことを避けてきたにもかかわらず、何かを変えてBLOCKSの成果発表会に登壇。忙しい仕事のかたわら、大好きなK・POPのライブを楽しむ日常を紹介し、若い女性たちの興味をひいた。「こんな大舞台で発表することは今後ないと思うと、人前で話すことも苦手ではなくなりました」。大勢の前での発表は豊田さんの自信になった。そして後輩ができると、自ら率先して挨拶したり、男性に話しかけたり、笑い話をしたり、積極的にほかの人と交わるようになった。「今後は早い段階から工部部と連携して、竣工書類に携わっていきたい。業務効率を上げて、工部部の役に立ちたいんです」。豊田さんの成長はまだまだ続く。

持ち前のエンタメ精神で 社員の魅力を発信したい

入社後、稲葉さんが初めて会社に貢献できたと感じたのは、重役への「盆踊り指導」

「踊りたい」。稲葉さんがそう言うのも無理はない。3歳からバレエとピアノを習い、学生時代はコーラス部に所属。大分大学時代は教育福祉科学部で身体芸術を学んだ。稲葉さんにとって踊ることは本能なのだ。「私は生粋の芸術家なんです」。前職で稲葉さんは踊っていた。テーマパークの舞台で。新卒採用されたリフォーム会社の営業は肌に合わなかった。自分の天職はショーキャスターだったのだと。ところが踊るほどに心と体は消耗していった。テーマパークの仕事はハード。結婚や出産を考えると続けることは難しい。そんな思いが募り、踊ることを辞めてレストランでアルバイトを始めた頃、意外な出会いが訪れた。「お客様に『うちで働かないか？』って声をかけられたんです」。稲葉さんをナンパ、いやスカウトしたのは西日本土木で働く男性だった。なんて軽いんだろう。常連ではなく初対面なのに。土木業界のことは知らない稲葉さんだったが、とりあえず面接へ。すると面接官に「うちにはまだ育休・産休のロールモデルがない。その第一号にならないか」と言われた。稲葉さんにとってこの言葉は、殺し文句だった。理想の未来図が頭の中に一気に広がった。子育てをしながら楽しく働く姿が。稲葉さんは迷わず入社を決めた。

運命の出会いに導かれて 踊れる採用広報に

だった。地元の「高田観光盆踊り大会」に会社として出場が決まると、稲葉さんは出場メンバーを練習会に召集。「社長室で社長にマンツーマンで指導もしました。これまでのキャリアが生きたかな」。稲葉さんは再び踊った。社長も仲間も踊った。祭りの賑わいと煌めきの中で。そして初出場で3位入賞。みんなと喜びを分かち合うと、稲葉さんは会社での目標を見つけた。「これまでは自分が踊って魅力を振りまく立場だったけど、今度は会社の人たちの魅力を知ってもらいたいなって」。

稲葉さんの所属する部署は人事・採用部門。新入社員を連れて、土木の現場を見学することも。探石場ではダイナマイトを使った発破を目の当たりにすることも。危険と隣り合わせの仕事。一生懸命に働く人がまぶしく見える。あの時、軽いと思っただけ、レストランで出会ったあの男性も仕事中はカッコいい。そう、現場男子はたくましく、責任感もあり、優しいのだ。この魅力は文章と写真だけでは伝えきれない。BLOCKSのセミナーで学んだイン스타그램やYouTubeの動画投稿で、土木業界で働く社員の毎日を、西日本土木の良さを発信していきたい。稲葉さんは素直にそう思った。「セミナーで出会った他社の広報女性たちも日々、頑張って情報発信しています。自分も負けてられませんね」。稲葉さんはこの春、第二子を出産予定。職場復帰後は、子育てと仕事を頑張る女性のロールモデルとして、早くフルタイムに戻りたいと意気込んでいます。採用広報として、そのエンタメ精神で会社の魅力を存分に伝えるために。



MY
PRESENTATION
for BLOCKS



西日本土木
株式会社
について

MANAMI INABA

稲葉真奈美 西日本土木株式会社（豊後高田市）

MY HISTORY

- ▶ 大分東明高等学校（準特コース）卒業
大分大学（教育福祉科学部情報社会文化課程
総合表現コース）卒業 ※現 教育学部
- ▶ 新卒1年間 工務店で営業プランナー、
その後3年程テーマパークダンサー
退職後、
大学時代にバイトしていたレストランで
再びホールスタッフのアルバイトなど

人生のターニングポイントは出産。
妊娠前と出産後では体質・1日の時間の使い方が働き方、
自分の性格・考え方・価値観・優先順位…全てが変わる。

舞台上踊るキャストから
土木会社の採用広報に転身
社員の魅力を伝える存在に



マニュアルをDX化
LINEで情報共有すれば
大切な技術をのこしていける



MY
PRESENTATION
for BLOCKS



株式会社
野村建設に
ついて

MANAKA ITAI

板井愛夏 株式会社野村建設（宇佐市）

LINEによる情報共有で 社内にプチDX革命を

友達のお姉さんが自分の家を自分で設計した。その話を聞いた時、板井さんはしびれた。自分も理想を詰め込んだ我が家を建てたい。その思いから、建築の専門学校を卒業し2級建築士の資格を取得。野村建設で輸入住宅の設計の仕事をして、夢への一歩を踏み出した。なんと板井さんは会社にとって20年ぶりの新卒採用者。配属後、周りを見渡すと、営業所にいるメンバーは60歳以上、しかも、みな男性だ。何を話せばいいのだろう。板井さんは悩んだが、すぐにその環境になじんだ。上司たちは自分を娘や孫のようにかわいがってくれる。女性が1人だったこともあり、休憩室などを快くつくってもらえた。その一方で、仕事は俺の背中を見て習え。のような古い風潮が残っている。板井さんの採用を皮切りに毎年2〜3名ずつ新卒採用し、会社全体が若返りを図る計画だが、このやり方では若い人はついてこれない。板井さんは社内でのLINEによる情報共有を提案した。先輩たちの技術を写真や動画におさめれば困った時に確認できる。また、#をつければ、関連する情報をまとめられる。そんなプチDX化をすすめたのだ。「LINEを使えば、わざわざ仕事のマニュアルを作る必要がありません。上司たちも積極的に写真の投稿方法を見せてくれて、現場の見通しがよくなりました」。

業界全体で助け合える そんな関係性を目指して

社内のLINEによるプチDX化に手ごた

えを感じた板井さん。今度はこの方法を社内だけでなく、建設産業全体に広めたいと願うようになった。特にBLOCKSに参加してから、その思いはいっそう強くなった。「LINEにベテラン職人の技術を記録として残せば、人手不足や技術継承など、業界全体の問題の解決にもつながります。BLOCKSで横のつながりができたことで、他社とも情報共有で助け合えるのではと期待しています」。その後、板井さんはBLOCKSの成果発表会に登壇。LINEの構想を伝えると、賛同者の声が上がるとともに、野村建設の認知度もグーンと上がった。やはり、業界全体で助け合う施策は求められているのだ。板井さんは、建設産業の働き方は変化していると話す。「会社の人事採用にも携わっていますが、弊社のことだけではなく、業界の現状も伝えています。特に仕事環境のこと。この業界は仕事がつい印象を持たれますが、今はそこまでではありません。うちも入社2年目からは完全週休二日制になりました。段々と良くなってきているので、興味があるならチャレンジしてほしいです」。

休日、板井さんは趣味のサウナを満喫している。友達とプライベートサウナで音楽を聴きながら汗を流すのが仕事の息抜きなのだ。先日、忘年会で訪れた宿のサウナが新しくなったという話題で上司たちと盛り上がり上がった。会社のおじさんたちに「何を話せばいいの」と悩んだのはいつのことだろう。時間とともに仕事も人間関係もアップデートされていく。LINEによる情報共有も、自分で描いた家が建つ日も遠くないだろう。